日本チェロ協会 20周年に寄せて

日本チェロ協会会長
堤 剛
(R-025)

編集部　日本チェロ協会は今年で20周年を迎えますが、改めて、協会設立のきっかけを教えて下さい。

堤　私は長年アメリカで学び、住んでいましたが、アメリカには各地域にチェロ協会がありました。私が教えていたインディアナ大学がある、ブルーミントンのチェロ協会の会長は、私の師匠でもあったヤーノシュ・シュタルケル先生が務められていたのですが、先生ご自身がチェリストの横のつながりはとても大事だという話を頻繁にされていたんですね。先生から日本でもつくるべきだというお話があり、様々な日本のチェリストの方々や友人にご相談したところ、皆さんに御協力をいただいて、1997年に日本チェロ協会が船出をしたわけです。

編集部　そうすると、やはり設立の目的はチェリストの交流ということでしょうか？

堤　基本的には、やはりチェロを通じての親睦団体です。チェリストのみならず、音楽を愛する方々が集まって親睦を深めること、それが大きな目的でした。

これは全世界的なことなのですが、チェロをやっている人というのは本当に仲が良いのです。ベルリンフィルの12人のチェリストが有名ですが、アメリカであれロシアであれ、あのような形でいわゆるチェロアンサンブルみたいなものがすごく盛んになりましたし、チェリストだとみんな何か仲間同士という感覚がとても強いのです。

編集部　設立から20年間、様々な活動を行ってきました。

堤　例年開催しているマスタークラスでは素晴らしい先生方にご指導いただいたり、チェロサロンには日本を代表するチェロ奏者の方を囲んで多くのアマチュアの方にも参加頂いています。2005年には、神戸で催された国際チェロ大会を共催しました。2010年から始まったチェロの日では皆さんと一緒に合奏するのも楽しいですし、その後のパーティーも、いつも素晴らしい雰囲気です。他にも、ジュニア・チェロ・キャンプや、最近始まった、病院などにおける、いわゆるアウトリーチ活動などがあります。振り返ってみると、色々な活動を通じて着実に歩んでこられたと思います。

編集部　本年、チェロ協会は法人化を行うことになりました。

堤　今年は20周年ということで、一般財団法人化することは、とても良い機会だと思っています。親睦団体としての活動がますます活発化するばかりでなく、今までできなかった活動にも取り組むことが出来ればと考えています。スタッフの皆さまは本当にいろいろと大変だったと思うのですが、ここまできちんとした仕組みを作っていただくことができました。

編集部　法人化を機に、さらに力を入れていきたい活動はありますか？

堤　チェロの普及と振興や、チェロのレパートリーも、もっともっと、いろんな形で広げていきたいと考えています。そして一番大事だと考えるのが、次代のチェリストたちを育てていくということです。チェロ協会の諸先生方がいらっしゃって皆様のために力になることが出来るというのは素晴らしいですし、例えば将来的には、楽器の貸与のようなこともできないかなど、一生懸命に考えていきたいと思っています。

それから、ぜひ国際的なチェロ・コングレスを開催したいと思っています。日本のチェロ界が海外に向けて発信を続けて、特にアジアの国々の方にとって、一つの目標としていただけたらと願っています。大きなイベントや継続的な活動を行うには、資金が必要になってきますが、法人化によって、寄付の受付や、助成金・補助金の申請がしやすくなります。その意味でも、法人化は大きな一歩だと思います。ただ、法人になることで公益性や社会的責任も高まりますから、そのことはちゃんと果たしていきたいとも思っています。

いずれにしても、先日開催された臨時総会も大変前向きな雰囲気でしたし、皆さんが、何かやろうという気持ちや、自分たちに何ができるだろうかという想いを強く持たれているようで、私としてはとても嬉しく、期待感に溢れています。

編集部　堤会長は演奏家としてはもちろん、教育者や経営者の側面もお持ちだと思いますが、チェロ協会は会長のライフワークの中で、どのような位置付けになるのでしょうか。

堤　先ほどチェロ協会をつくるにあたって、シュタルケル先生のアドバイスを頂いて設立を決めたことをお話しましたが、やはり先生のお姿を見てチェロ協会をつくらなければいけないと思ったのです。先生は大変お忙しい方でしたけれど、演奏だけでは、自分の人生が半分ぐらいにしか感じられないと仰っていて、教えることと演奏することというのは車の両輪みたいなものだと、最初の頃からたたき込まれてきました。チェロ協会の活動は、そういったライフワークの心棒的な役割を果たしているのだと思います。

シュタルケル先生がすごいと思ったのは、何しろパーティーをすることがお好きでした。ご存じのように、アメリカではパーティーというのがとても大事なことなのです。いろんな人が集まって、いろんな話をする。私にとって、チェロ協会というのは、ある意味でそのような場だと思っています。皆さんと集まって一緒に何かやるとか、それによって何か素晴らしいものが生まれてくるのではないかとか、それから若い方にも何かのお役に立てるのではないかとか思っています。

副会長　中島顕（R-085）

早いものでスズキ・メソードの教本の模範CDを堤剛先生にお願いし、そのレコーディングの折お声がけいただいた日本チェロ協会のお手伝いを始め、20年の時日が流れました。その間、事務局やスタッフ、ボランティアの方々のお力添えを得て、地味ではありますが着実な活動を続けてまいりました。特に近年は協会設立の柱であったプロ、アマの壁を越えた活動が定着して毎年「チェロの日」が開催され、交流の場がより一層充実することを願っています。私自身立場上プロとアマチュアの中間的立場にいつも身をおいていますが、チェロを愛することにかけては立場など関係ないということがチェロ協会の活動を通して実を結んでいること、うれしく思っています。特に、この複雑で乾いた現在の社会状況において、子ども達はこれからどう育っていけば良いのか未来はあるのかと自問自答したとき、私達チェロ族の原点でもあるパブロ・カザルスが来日の折子ども達の演奏を聞いた後声を詰まらせながら「音楽は世界を救うであろう」と発しました。音楽は音楽だけに留まらず人間や社会へ直接浸透する大きな力を持っていると思います。チェロを愛する人々はいつも群れを成し、人を愛する特色があると常に話題となります。

これからの日本チェロ協会の歩みとして、チェロの楽器としての追求、演奏家育成へのサポートはもちろんですが、チェロ協会に属しておられる多彩な人材のお力添えを得て、チェロという楽器や音楽を通してより人間的な社会の構築に向けて貢献できる具体的な活動は何かを考えて行きたいと願っております。

副会長　堀了介（R-032）

1997年、堤氏の発案により日本チェロ協会は発足しました。当時、世界各地にはすでにチェロ協会があり、プロ・アマが集まりそれぞれの活動をしていましたが、日本にはまだチェロ協会は存在せず、日本人チェリスト・アマチュア愛好家・チェロを勉強する若者達を繋ぐ組織はありませんでした。海外で活躍する日本人チェリストも増えていくなか国際的な要望もあり、「是非日本でもチェロで一つに結ばれる団体を」との堤氏の呼びかけに、多くのチェリスト・愛好家達が呼応し、ここに日本チェロ協会が発足したのです。活動が軌道にのった2005年、神戸に於いてインターナショナル・チェロコングレスが開催され、プログラムの一環として1000人を超えるチェロの大合奏が行われました。海外からもロストロポーヴィチ氏をはじめ名だたるチェリストが来日、プロ・アマを問わず愛好家が老いも若きもチェロを持ち一緒に演奏、演奏しない会員も聴衆として、また裏方として参加し、まさにチェロを愛する人々が一つに繋がった大祭典がそこで実現しました。

チェロ協会では、これまでコンサート・公開レッスン・親睦会など様々な催しを行ない、会報などでチェロに関わる情報発信もしてきましたが、活動の内容をより広く知っていただき、これからもチェロで繋がる会員が一人でも多く増えていくことを心から願っております。

書記　山崎伸子（R-049）

© 武藤章

思えばこの20年、今日までチェロ協会が活動を続けてこられたのは会員の皆様と事務局の方々のチェロに対する熱い想いがあったからこそと、心から感謝しております。

20年の歩みの中で特に印象深かったのは、2005年にチェロ協会が共催した「インターナショナル・チェロコングレス・イン・神戸2005」でした。20世紀の巨匠、ロストロポーヴィチ氏、J・シュタルケル氏、B・グリーンハウス氏が一堂に会しトークショーをする機会というのは、今振り返ると奇跡的な出来事のように感じます。コングレスは、もちろんお祭り的な要素もありますが、世界で活躍するチェリストの演奏やマスタークラスを間近で聴くことができ、また、プロ、アマを越えた沢山のチェリストとの交流は本当に記憶に残る特別な祭典でした。

今年、チェロ協会が任意団体から法人化し、組織としての基盤が整うことで、マスタークラス一つをとっても、今後活動の幅が拡がるのではないかと、とても期待しています。これまで協会が主催するマスタークラスでは、毎回素晴らしい先生に来ていただきましたが敷居が高いのか、応募する方が少ない時もあり残念に思ったことが度々ありました。プロを目指している方々はこのような恵まれたチャンスを逃さないで頂きたいですし、プロ、アマを問わず沢山の方が参加して下さること、そして若い優秀なチェリストの成長を見守り応援していってほしいと、常々思っております。

最後になりましたが、これからもチェロ協会として魅力ある企画を開催し、会員を増やして益々発展していくことを心から願っております。

JCS20周年、誠におめでとうございます。20年前たまたまインターネットで「日本チェロ協会発足！会員募集」という記事に出会いました。すぐに申し込んだところ会員番号2というラッキーNo.を頂け、その縁で初代会計監査の役目を拝命しました。行事にも多々参加しましたが、一番の思い出は、藤森亮一さんの熱烈なファンだった私を彼のインタビュアーとして選んで頂き、その対談内容がJCS会報に載ったことです。その他、会員の方々が探しておられたレア楽譜を何度か提供するなど、多少は会にも貢献できたのではと思っております。今後益々のJCS発展を願ってやみません。
●藤田正厚（R-002）

© 大窪道治

このチェロ協会が主催してきたコンサートでは、普段なかなかご一緒することのない方々の演奏を一度にたくさん聴ける貴重な機会でもあり、また自分自身が弾くときはいろいろな方々に聴かれてしまう大変恐ろしい場でもありました。そして、職業を問わず純粋にチェロを楽しみ、交流を深めることのできる企画は、チェロだからこそ！という気がします。ますます日本のチェロ界がこの協会とともに元気になっていくことを願っております。20周年おめでとうございます！
●向山佳絵子（R-003）

© 林喜代種

20周年おめでとうございます。ほぼ発足から参加させていただきましたが、会の催しには数回参加したのみでした。今後は少しでもお役に立てればと思っております。チェロ協会の今後益々の発展を期待しております。
●藤森亮一（R-004）

素晴らしき20周年、おめでとうございます。入会時は20年後の姿など思い描くことは当然できず、これほど深くチェロ協会に関わるとは思ってもいませんでした。当時はチェロアンサンブル曲も限られていましたが、たまたま始めたアレンジも200曲を超え、チェロオケでも何度か演奏して頂き嬉しい限りです。また2006年の「チェロの音楽会」で「ヨーヨー・マを指揮した男」になってしまった事実は忘れられません。これからも末永くチェロ協会と共に歩んでいけたら、この上ない幸せです。
●石島栄一（R-016）

© 千葉広子

日本チェロ協会20周年というとてもおめでたい場に同席できる喜びをかみしめています。私とチェロ協会の思い出は数多くあるのですが、ここ数年とくに新しくアウトリーチ活動を始めるお手伝いをさせて頂き、大きなやり甲斐を感じています。日本のチェロ界の充実は、本当に世界に誇れるレベルまできており、これもひとえにお1人お1人の会員の皆さまのおかげだと思っております。次なる30周年を目標に、チェロを通じて、ますます豊かな時間を一緒に作れますように!!
●長谷川陽子（R-053）

日本チェロ協会が誕生してもう20年とは、月日の経つのは早いものです。チェロ・サロンやチェロの日コンサートでのプロアマ問わない交流では、改めてこの協会の活動の素晴らしさ、チェロの魅力を実感しました。また、今回は若手の素晴らしい方々と一緒に演奏出来る事をとても楽しみにしております。これからも、この様な活動を沢山の方々に知って頂き、支えて頂ける様尽力させて頂きたいと思います。
●菊地知也（R-063）

初代事務局長　児玉真（R-047）

日本チェロ協会が今年で20周年になると聞くと嬉しいような面映ゆいような気持ちになります。日本のクラシック音楽を巡る状況はこの20年で随分変わりました。音楽の世界でもビジネスと社会的ミッションが重きを持って来ました。美しい音や音楽が好きな人たちが自然に集まって創られる雰囲気、という、人と音楽の幸福な出会いのなかにある優しさのようなものだけでは出来ないよねぇ・・・というような本音が優勢になってきているような気がしますが、音楽の存在理由はそれだからこそあるとも言えます。

1997年にカザルスホールの協力で作った日本チェロ協会は2000年にサントリーホールに事務局を移しましたが、そのおかげできちんとした組織になったなと思っています。が、最近、事務局長が「チェロ協会の仕事は大きな企業に身を置いてきた仕事と違う喜びがある。みんなが良い人で本当に気持ちよく仕事が出来る」というようなことを言っているのを聞いて嬉しくなりました。最近は次の世代が運営に入ってきて意見を話してくれるので徐々に未来が見えてきたような気がします。これから、社会に対するミッション性はますます求められていく時代になると思いますし、日本チェロ協会もそのような組織になっていくとは思いますが、ただ、関わる人の心地よさを担保できる、大き過ぎない集団としての関係性の良さ、風通しの良さは残っていって欲しいと思います。

20周年おめでとうございます。思い返せば、日本チェロ協会の第1回マスタークラス（バーナード・グリーンハウス氏）の1人目の受講生が私でした。それ以来20年間、イベントには少なからず参加させて頂き、ここでしか味わえない体験をさせて頂けたことに感謝します。世界的に見てもチェリスト同士は仲が良く、集まって調和（アンサンブル）することが好きな人種のようです。これからも楽しい音楽的時間を共有できますよう、益々のご発展をお祈り申し上げます
●西谷牧人（R-223）

© 中山かつみ

創立20周年おめでとうございます。私がチェロ協会に入会したのは、クレメンス・ハーゲン氏の公開レッスンを受講した時です。もう15年くらい前（!?）の事です。そのご縁で、その後彼の元へ留学する事になりました。人生の大きな出会いを導いてくださいました。これからも沢山の出会いを作ってくれるチェロ協会から目が離せません！
●遠藤真理（R-253）

© 読売日本交響楽団

この度はチェロ協会設立20周年をお迎えされましたこと、誠におめでとうございます。

僕自身、何度かチェロの日の企画の一部を担う機会を与えて頂きました。企画したコンサートを通して、プロアマの垣根なくチェロをこよなく愛する沢山の方々との素敵な出会いに心より感謝申し上げます。今後ともチェロ協会を応援させて頂くと共に、チェロ協会のさらなる発展をお祈りします。
●高木慶太（R-273）

©Takaaki Hirata

日本チェロ協会20周年おめでとうございます！チェロを愛する皆様の心があってこそ迎えられた20周年、私もチェロ協会を通して沢山の素敵な出逢いに救われて参りましたので、大変感慨深く嬉しいです。スイス留学当初に出演させて頂いた「第2回チェロの日（2012年）」にて大先輩に囲まれ緊張しながら演奏したアルペジオーネソナタ、プロアマ合同で楽しんだチェロオーケストラは特に心に残る想い出です。これからも益々のチェロ協会のご発展をお祈りしております。
●新倉瞳（R-315）

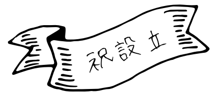
このたびは20周年おめでとうございます。これまでチェロ協会主催の催しでは色々と貴重な経験をさせていただきましたが、その中でも大学1年生の時のクレメンス・ハーゲン氏の公開レッスンが一番の思い出です。ブラームスのソナタ1番のレッスンで、歌うのではなく語るようにとアーティキュレーションの意味について教わりました。冒頭を目の前で演奏していただいた時の感動は未だに鮮明に覚えています。これからもこのような経験を若い学生がたくさんできますよう心より願っています。
●門脇大樹（R-419）

Anniversary Messages From 30 cellists

あゆみ The History of JCS

1997年11月
日本チェロ協会設立

東京・千代田区のお茶ノ水スクエア内で開催された設立総会（32名参加）にて、日本チェロ協会が発足。設立時の正会員は101名。事務局は同スクエアにある「カザルスホール」内に設置された。



1998年1月
会報の発行を開始

日本チェロ協会 会報

第1号は「日本チェロ協会　会報」というタイトル。日本チェロ協会設立のお知らせや、設立総会の議事抄録に加えて、「各地のチェロ協会からのメッセージ」などを掲載。続けて2月に発行された第2号から、現在の「JCS NEWS」の名称に。

1998年2月
ロゴマークを制定

日本チェロ協会のロゴマークは会員から広く公募して作成された。投票の結果、会員の山口健一氏が製作したロゴが採用され、現在も受け継がれている。

1998年3月
初のマスタークラスを開催

ボザール・トリオの創立チェロ奏者でカザルスの弟子でもあった名手バーナード・グリーンハウス氏を迎えて、JCS初のマスタークラスを奈良と東京で開催した。

1998年5月
第1回 チェロ・サロンを実施

「チェロを持って集まろう」をコンセプトに、カザルスホールにて開催された。主宰は堀了介氏。約20名が参加してチェロクリニックなどが行われた。

1998年6月
初の会員総会

お茶ノ水スクエアにおいて、第1回会員総会を開催。事業計画等が承認され、現在に続くチェロ協会の活動の礎が定まった。

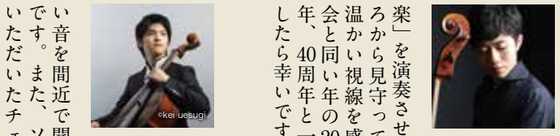
（写真すべて）2011年2月
チェロ・コングレス・イン・ジャパン 2011 より
©サントリーホール

Anniversary Messages From 30 cellists

©Shunji Kamemura

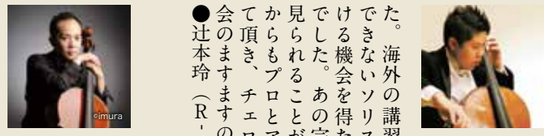
20周年おめでとうございます！ 20という数字は区切りがよく、ユーロでも20セント、20ユーロがあるくらい、大切な年だと思います。この20年間、日本チェロ協会は、チェロの魅力を沢山の方々に知ってもらい、チェロの仲間も益々増えていき、大切な日々だったと思います。これからもチェロ仲間とチェロの魅力を多くの方へ伝え、チェロの音のように暖かくふくよかな気持ちになる演奏会を開いていきたいと思います。本当におめでとうございます！！！ ●宮田大（R-422）

この度は日本チェロ協会20周年おめでとうございます。私は、学生の頃、ミクローシュ・ペレーニ氏のマスタークラスに参加させて頂きました。海外の講習会でないと受けることができないソリストのレッスンを日本で受ける機会を得たことは本当に嬉しいことでした。あの完璧なボーイングを間近で見られることができ感無量でした。これからもプロとアマチュアの架け橋となって頂き、チェロ界そして、日本チェロ協会のますますのご発展を願っております。●辻本玲（R-474）



20周年、おめでとうございます。一番の思い出は第6回チェロの日「チェロでひとつになるコンサート」で、チェロオーケストラの皆様を背に「文楽」を演奏させて頂いた時のことです。後ろから見守って下さる雰囲気で、とても温かい視線を感じました。僕もチェロ協会と同い年の20才。温かい気持ちで30周年、40周年と一緒にお祝いさせて頂けましたら幸いです。●森田啓佑（S-146）

創立20周年おめでとうございます。初めて参加させて頂いた時から、一流の先生方、沢山のチェロ愛好家の方々と弾かせて頂き、中学生だった私のチェロの世界が一気に拓けました。20歳になる今日までに様々なイベントで育てて頂きましたが、居心地が良く、優しく包み込んでくれる雰囲気が大好きです。そしていつも懐の深さを感じずにはいられません。これからもチェロを通して多くの人々を結び、より発展されますことを心よりお祈り申し上げます。●香月麗（S-100）


©imura

この度は20周年おめでとうございます。昨年のコンサートからの新人会員ですがコンサートでは皆様と一緒に合奏したりチェロカルテットを演奏させていただきとても楽しい1日でした。今後も「チェロは集まれば楽しい！！！」を皆様と一緒に共有していけたらと思います。ますますのご発展をお祈りしています。●玉川克（R-497）

©kei uetsugi

この度は20周年誠におめでとうございます。チェロ協会においては、受講させていただいたマスタークラスにて、ルイス・クラレット先生の輝かしい音を間近で聞けた事がとても印象深いです。また、ソロとデュオを演奏させていただいたチェロの日では、そうそうたる先生方を前に物凄く緊張しましたが、素晴らしい経験でした。チェリストを志して10年ちょっとですが、チェロ協会や多くの先生方に支えていただき、充実した環境の中で勉強できることをとても幸せに思います。●藤原秀章（S-149）

日本チェロ協会創立20周年、誠におめでとうございます。私もまもなく20歳。チェロを始めて13年になりますが、チェロという楽器の認知度が年々高まっていくのを強く感じ大変嬉しく思います。音楽祭やコンサートで地方に伺うことも増えてきましたが、常にチェロの素晴らしさを伝えていくことを忘れずに精進して参りたいと思います。チェロ協会においてはマスタークラスなどでお世話になりましたが、イベントなどにも精力的に参加していきたいと思っています。今後とも益々の発展を祈念しております。●水野優也（S-151）

この度は20周年をお迎えされましたこと、誠におめでとうございます。私は現在20歳なので、同じ年月過ごしているということでとても嬉しく思っています。これまでにマスタークラスやその他演奏会に多数参加させていただき、そこでたくさんの日本のチェリストに出会いたくさんのことを学ばせて頂くことができ、日本のチェロ界の中心だと実感致しました。これからの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。●佐山裕樹（S-156）

このたびは日本チェロ協会20周年誠におめでとうございます。チェロという楽器を通じて皆さまの交流が深まり、その音楽の楽しみが広がる、様々な活動を多くの方の協力により歩んでこられたこと、本当に素晴らしいことだと思います。財団法人を設立されますますその歩みを力強いものとされるということで、微力ではありますが、少しでもその活動のお力添えをさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。●大友肇

1999年5月

関西初のチェロ・サロンを開催

日本アマチュア演奏家協会（APA）と共催で、大阪・心斎橋国際楽器ホールにおいて開催。主宰は堤剛氏。なお、チェロ協会単独としての関西初のチェロサロンは、2001年に林俊昭氏の主宰で行われた。

1999年10月

シュタルケルによるマスタークラス

カザルスホールにおいて、米国インディアナ大学教授であった世界的チェロ奏者のヤーノシュ・シュタルケル氏を招いてマスタークラスを開催。

By David Webber from Philadelphia, USA

2000年4月

日本チェロ協会事務局移転

カザルスホールが閉館したことに伴って、事務局機能がサントリーホールに移転。

2000年6月

山中湖でサマーキャンプを開催

第2回総会と併せて、サマーキャンプを山中湖の「ペンション・セロ」で開催。1泊2日のキャンプでは、アンサンブル演奏やクリニック、懇親会などが開催され、約30名の参加者があった。

2004年3月

ウェブサイトを開設

協会の活動内容・会員コンサート情報等を掲載。

2005年5月

インターナショナル・チェロ・コングレス・イン・神戸　2005

国際チェロアンサンブル協会等と共催で、1週間にわたるチェロ・コングレスを神戸で開催。数多くのコンサート、マスタークラスのほか、1000人のチェロコンサートが行われた。大会名誉総裁に高円宮妃久子殿下、大会名誉会長にロストロポーヴィチ氏、大会会長にはグリーンハウス氏とシュタルケル氏を迎え、世界25カ国約60名の演奏者も参加した。

Anniversary Messages From 30 cellists

THE HISTORY OF MASTER CLASSES

過去の「マスタークラス」開催一覧

1998年3月23日(月)	バーナード・グリーンハウス	秋篠音楽堂（奈良）
1998年3月29日(日)	同	ヴォーリーズホール
1998年3月30日(月)	同	ヴォーリーズホール
1998年10月28日(水)	ミクローシュ・ペレーニ	ヴォーリーズホール
1999年2月26日(金)	ルイス・クラレット	ヴォーリーズホール
1999年10月5日(火)	ヤーノシュ・シュタルケル	カザルスホール
1999年12月18日(土)	クリストフ・ヘンケル	ヴォーリーズホール
2000年11月20日(月)	ボリス・ペルガメンシコフ	サントリーホール　小ホール
2001年9月23日(日)	ヤーノシュ・シュタルケル	トッパンホール
2002年3月13日(水)	クレメンス・ハーゲン	サントリーホール　小ホール
2003年1月17日(金)	ミクローシュ・ペレーニ	サントリーホール　小ホール
2003年4月6日（日）	フィリップ・ミューレル	サントリーホール　小ホール
2005年10月20日(木)	ジャン＝ギアン・ケラス	サントリーホール　リハーサル室
2007年10月27日(土)	ルイス・クラレット	サントリー美術館 6F ホール
2008年12月13日(木)	ルイス・クラレット	サントリーホール　小ホール
2009年10月18日(土)	ピーター・ウィスペルウェイ	サントリーホール　小ホール
2010年2月13日(日)	クライブ・グリーンスミス	サントリーホール　リハーサル室
2012年2月12日(日)	ルイス・クラレット	サントリーホール　ブルーローズ
2012年10月30日(火)	タチアナ・ヴァシリエヴァ	サントリーホール　ブルーローズ
2013年11月20日(水)	ジャン＝ギアン・ケラス	サントリーホール　ブルーローズ
2014年4月10日(木)	ルイス・クラレット	サントリーホール　ブルーローズ
2015年10月10日(土)	ヘスス・カストロ・バルビ	サントリーホール　ブルーローズ
2015年10月24日(土)	シュテファン・コンツ	サントリーホール　ブルーローズ
2015年11月13日(金)	タマーシュ・ヴァルガ	サントリーホール　リハーサル室
2016年11月14日(月)	タマーシュ・ヴァルガ	サントリーホール　ブルーローズ
2016年11月22日(火)	マリオ・ブルネロ	汐留ベヒシュタイン　サロン
2017年6月21日(水)	アルド・マータ	スペイン大使館

海外からのメッセージ

From

日本チェロ協会創立20周年をお迎えされましたこと、心よりお祝い申し上げます。若手チェリストの育成やチェロの楽器としての発展性を探求する、継続的で力強い取り組みに感謝申し上げます。

日本チェロ協会が今後何十年も素晴らしいコンサート、マスタークラス、そして楽しいチェロの催しでご活躍をされますことお祈りいたします。

I would like to heartily congratulate the Japan Cello Society on their 20th anniversary and thank them for their continuous and successful initiatives to help young cellists and promote music all around our beautiful instrument!
I wish the JCS many more decades of great concerts, master classes, and joyful cello gatherings!

©Marco Borggreve

Jean Guihen Queyras
ジャン＝ギアン・ケラス

1994年からほぼ毎年、コンサートとマスタークラスのために来日してきたことを光栄に思い、そして名誉なことと感じています。私は、多くの才能ある若者の演奏を聴くこと、また日本の聴衆に会うことが大好きなのです。

素晴らしい友人であり尊敬すべき仲間でもある堤剛先生にお招き頂いて、私が初めて日本チェロ協会で行ったマスタークラスのことを、とても鮮明に覚えています。その時、私は日本のチェロを学ぶ方々が持つ繊細な感性に感じ入りましたが、それと同時に、チェロの世界に進むためには開花すべき才能があり、その才能を伸ばすためには異なるアプローチも必要だと考えました。

これまでの間、日本チェロ協会がいかに日本の若手チェロ奏者のために様々な機会を提供することで育成し、我々の愛すべきチェロという楽器のために成し遂げてきたかということを、私はみてきました。

そして、とても情熱的で熱心なコミュニティを形成するアマチュア奏者に対する活動も、日本におけるチェロへの愛情をさらに高めることに貢献しているのだと考えています。

心からのお祝いと深い畏敬の念を表します。

©Marco Borggreve

Lluís Claret
ルイス・クラレット

Cello and Chamber Music Faculty at NEC (Boston) / Chair of the String Department

Since 1994 I have had the pleasure and the privilege to visit Japan almost every year, performing concerts and giving masterclasses.
I always loved to meet my japanese audiences and to listen to many young talents.

I remember very well my very first masterclass for the Japan Cello Society, invited by my great friend and admired colleague Maestro Tsuyoshi Tsutsumi.
At that time I was aware of the great sensitivity of japanese cello students for classical music, but I also felt that together with some great talents they needed to open their years to some other approaches to the cello world so to be able to develop their talent.

During these years I could see how much the Japan Cello Society has done for our beautiful instrument, constantly improving the young japanese cellists level by giving them so many opportunities in that direction.

The Japan Cello Society activities for amateur cellists, which is an awesome and enthousiastic community in Japan have also contributed to an even greater love for the cello in their country.

My warmest congratulations and deep admiration!

日本チェロ協会が20周年を迎えられたとのこと、心よりお祝いを申し上げます。

次なる・・・少なくとも120年に向けて、さらなるご活躍をお祈り申し上げます。

"All my heartfelt congratulations to JAPAN CELLO SOCIETY on their 20th Anniversary!
I wish you all the very best for - at least! - another 120 years!"

Sincerely,

©Hideki Shiozawa

Mischa Maisky
ミッシャ・マイスキー

2011年2月

© サントリーホール

チェロ・コングレス・イン・ジャパン 2011

「世界はもっと響き合う・・・」というコピーのもと、サントリーホールにてコンサートや親子チェロ教室、マスタークラスなどを3日間にわたり開催。国内のチェロ奏者約50名が出演したほか、総勢180名が参加したチェロ・アンサンブルは大ホールで演奏された。

2010年1月

第1回「チェロの日」

「アマチュアもプロもチェロを愛する人は楽器を持ってサントリーホールに集まろう！」との主旨で開催。アンサンブル演奏を楽しむ、現在の「チェリストの集い」の原点となった。以降、コングレスが開催された2011年を挟んで毎年開催されている。

2006年11月

© サントリーホール

「チェロの音楽会」を開催

サントリーホール　小ホール（現ブルーローズ）にて特別企画として開催された。前半は会員が参加する複数のアンサンブルチームによる演奏会。後半に行われた41人によるチェロ・アンサンブルには、大ホールで演奏会を終えたヨーヨー・マ氏が飛び入り参加した。

これまでも、これからも。チェロを愛してやまないチェロ弾きのために。

PROJECTS

チェロ協会活動一覧

© 池上直哉

© サントリーホール

© 山廣康夫

1 | チェロ・コングレス

チェリスト、パブロ・カザルスは「世界中の人びとが、幸福と、美を愛する心で結ばれて、一つの大きなコンサート会場にいるかのようにともに坐る日を待ち望んで」いましたが、日本チェロ協会では、そのようなイベントとして 2011 年に「チェロ･コングレス」を開催致しました。コングレスは、チェリスト同士の相互研鑽やチェロを愛する人々の親交を深める場、そして若手演奏家の演奏機会の提供、音楽によるパーソナルな人間関係を通じた平和な国際社会に向けた発信を目的としています。サントリーホールの大ホールとブルーローズにてコンサートやシンポジウム、親子向けイベントなど、3 日間で計 5 コンサート 4 イベントを開催しました。

2 | チェロの日

2010 年にスタートしたチェロの日は、日本チェロ協会がチェリストに送る恒例のイベントです。チェロ協会の会員とチェリスト以外の音楽家とのコラボレーションによる演奏会や、プロ、アマの垣根を越えてチェリストが参加する「チェリストの集い」を開催。チェロにまつわる様々なことを学ぶチェロ・ゼミナールも好評です。例年、約 70 人のチェロ奏者が一堂に会して演奏する「チェロ・オーケストラ」は圧巻の迫力！

3 | マスタークラス

チェロ協会の大きな活動目的のひとつは若手演奏家の育成であり、設立当初から世界的に活躍するチェロ奏者を講師として招き、マスタークラスを積極的に開催してきました。過去に J. シュタルケル氏や B. グリーンハウス氏を招いたほか、近年では「チェロ協会と世界の仲間たち」として 3 名のチェロ奏者による連続マスタークラスを開催し、ウィーン・フィールハーモニー管弦楽団の T. ヴァルガ氏による「オーケストラ・スタディ」形式のクラスにも取り組んでいます。

4 | チェロ・サロン

チェロ協会には、プロ、アマチュアを含むチェロ愛好家約 300 人が会員として所属しています。愛好家が気軽に集まって活動をするアメリカ各地のチェロ協会を参考に、日本チェロ協会でも、例年、会員のチェロ奏者が主宰する「チェロ・サロン」を開催しています。サロンでは、プロの演奏家を囲んでアマチュア演奏家が技術上のアドバイスを受けるクリニックや、サロンに集まったメンバーでチェロ・アンサンブルを楽しんでいます。

5 | アウトリーチ

チェリストの親睦や互助に留まらず、チェロ協会が社会のなかで果たすことが出来る役割を担うため、2015 年よりアウトリーチ活動を開始しました。私たちの活動の重点は、社会との接点が限られている人々、具体的には病と向かい合う方やそのご家族などと共に、チェロを通じて「響き合う」ひとときを作ることです。これまでに、子ども病院や福祉施設などで開催しており、今後も積極的に実施していく予定です。

And ...More!

チェロ演奏会情報の発信

従来より発行している会報“JCS News”でもイベント情報を掲載していましたが、ネットの普及を踏まえ、2014 年のウェブサイトリニューアルと併せて、チェロにまつわる演奏会などの情報をウェブサイトで発信しており、現在では会員、非会員の方から情報を頂戴しています。また、メルマガの配信（不定期）も開始し、イベントのご案内を多くの方々にお届けしています。

日本チェロ協会 設立 20 周年

2017 年 11 月

20 周年記念 フェスティバル開催

チェロ協会 20 年間の活動の軌跡をたどる展示の他、特別演奏会、委嘱曲「チェロの為のハーモニックファンファーレ」（小林幸太郎氏作曲）の試演会を開催。

2017 年 9 月

日本チェロ協会 法人化を決定

9 月 17 日に開催された臨時総会において、日本チェロ協会を法人化し、一般財団法人日本チェロ協会を設立の上、2018 年度より活動を移行することを決定した。

2015 年 10 月

連続マスタークラスを開催

10 ～ 11 月にかけて 3 回にわたる連続マスタークラスを開催。米テキサスクリスチャン大学のカストロ＝バルビ氏、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のコンツ氏、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のヴァルガ氏を講師として招く。カストロ＝バルビ氏のマスタークラスでは、小林幸太郎氏作曲「Nagi ～ 2 本のチェロとピアノの為の」が初演された。

2015 年 6 月

初の アウトリーチを実施

国立成育医療研究センター（東京･世田谷）にて、ロビーコンサートや入院病棟でミニ演奏会を開催。以後、医療機関等におけるアウトリーチ活動を年数回開催。

2013 年 2 月

ジュニア・チェロ・キャンプ

第 3 回「チェロの日」の一環として開催された初のジュニア向けイベント。小 1 から中 3 まで 20 人を超える参加者が受講し、その成果を演奏会形式で発表した。